

令和7年7月12日
資料1－3

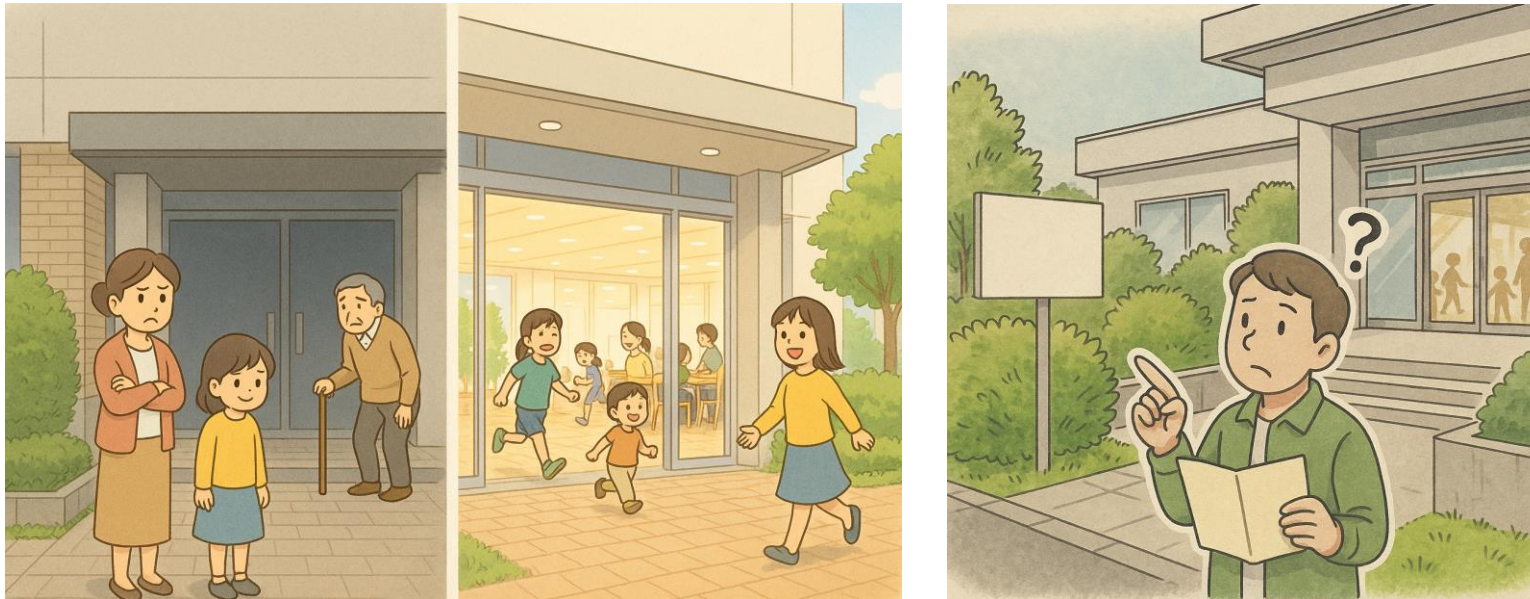
東寺方複合施設の整備に向けた地域協議会第1回 2025年5月17日

前回の意見まとめ

①現在の施設について

エントランス、施設への誘導

- 入りづらく、気軽に立ち寄れない雰囲気があるので、もう少し誰でも入れるような入口、施設にしたい
- 看板がないので、分かりやすく施設に誘導したい

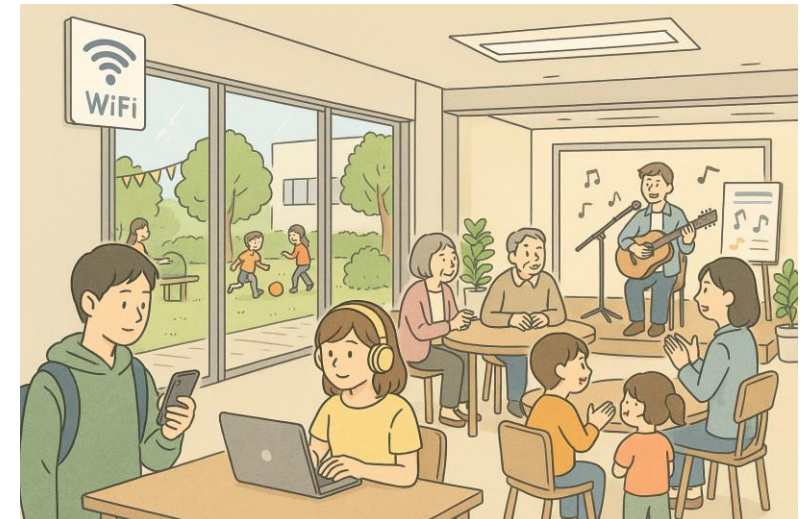


イラストはChatGPTが
生成したイメージ図です

①現在の施設について

多世代交流の拠点としての役割

- 色々な世代の人が来ているが、今の施設は3層に分かれているので、多世代が混ざれる工夫をしたい
- 若い人の呼び込みをしたい・新しいことをしたい（Wi-Fiの導入や、プログラムの工夫など）



イラストはChatGPTが
生成したイメージ図です

②地域の現状

子どもの居場所と安心の確保

- 安心して居られる場
- 学びを支援する場
- 今の時代背景として、家庭に課題を抱えている子どもが増えているのに、どんどん外からだと見えにくくなってきているので、そのような地域の課題に向き合っていきたい

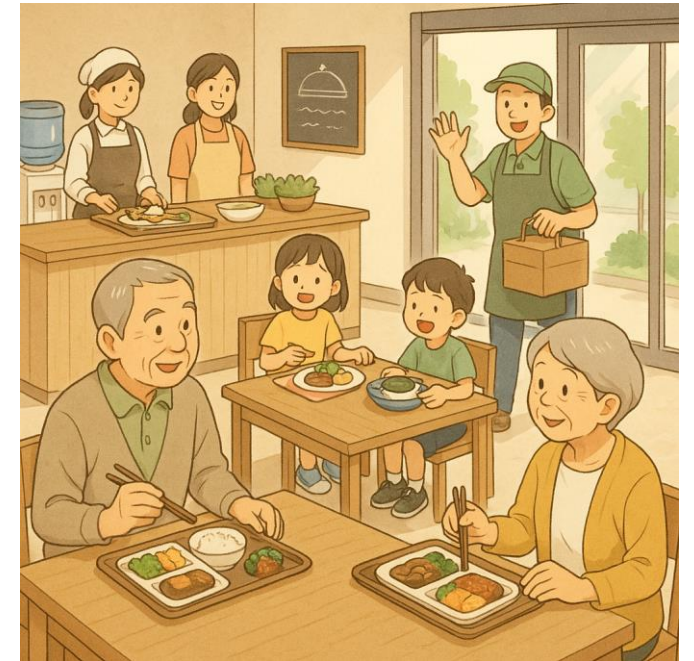
イラストはChatGPTが
生成したイメージ図です



②地域の現状

食と健康を通したつながり

- 施設で行われてきた昼食会や、食を通じてつながる居場所としての機能やしくみ、見守り機能
- 健康マージャンなどの居場所としての機能



イラストはChatGPTが
生成したイメージ図です

③地域に必要な機能とサービス

相談支援体制と人的配置の充実

- 利用者が安心して相談できるよう、「行政サービスに詳しい人」や「有資格者」を配置してほしい
- **子どもや話しづらさを抱える人にも寄り添えるスタッフの配置**、例：鈴木館長

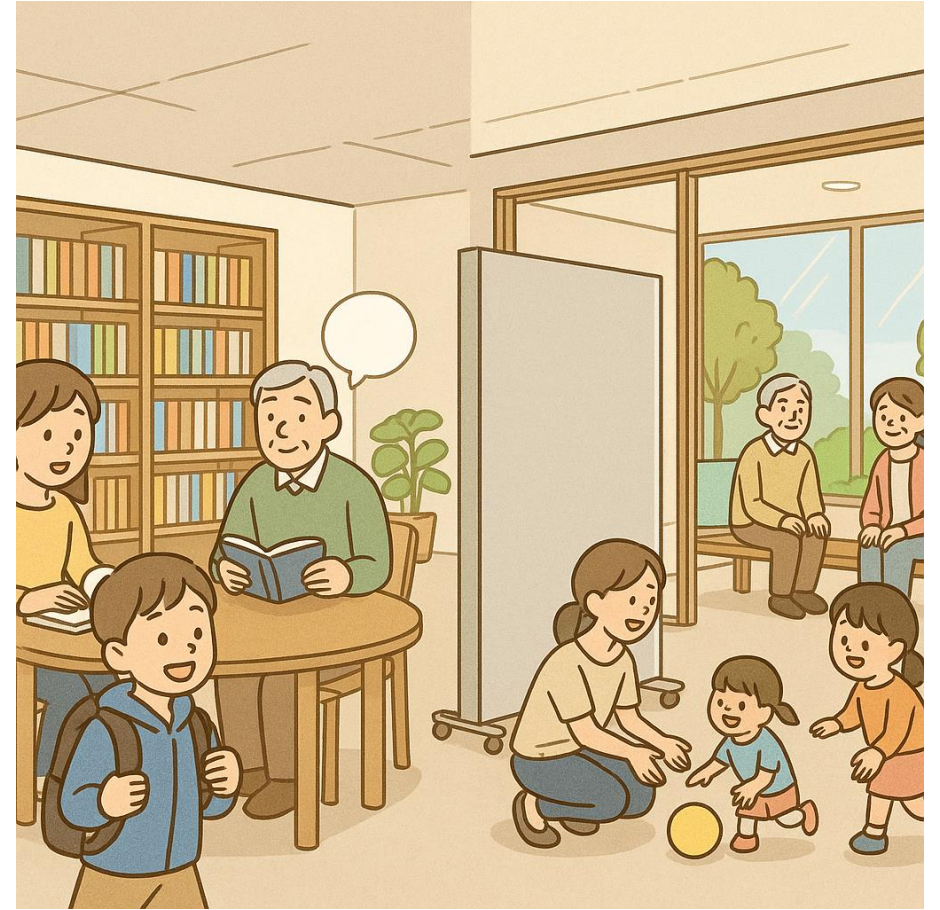


イラストはChatGPTが生成したイメージ図です

③地域に必要な機能とサービス

誰もが使いやすい空間づくりと 多世代交流

- コミュニティ施設や図書館、子どもの居場所の機能を高め、「来たくなる施設」にする工夫（例：学習支援の場、図書館の魅力化、居場所づくり）
- 「子どもだけでなく全世代が使える場」にすること、「パーティションで仕切って使いやすい」といった空間の柔軟性・配慮

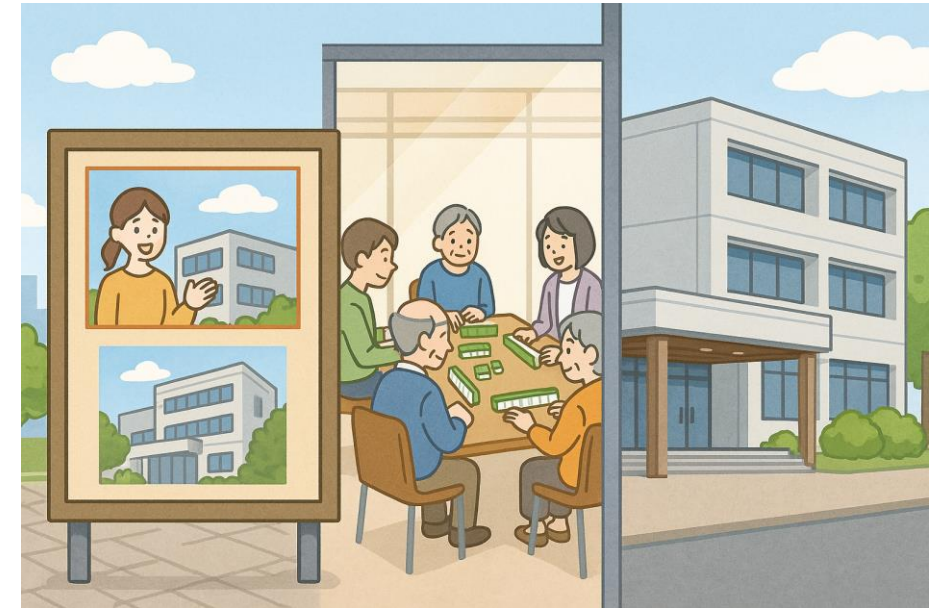


イラストはChatGPTが
生成したイメージ図です

③地域に必要な機能とサービス

地域に開かれた施設運営と活用の工夫

- 「施設の存在をもっと地域に知らせてほしい」という、周知・広報の強化
- 「3階部分の活用をもう少し考えたい」「健康マージャンなどの行事開催」「地域の相談事をつなげたい」などの、施設の具体的な活用提案



イラストはChatGPTが
生成したイメージ図です

④の進め方について

情報共有のしくみづくり

- 委員への事前の情報共有
- 委員間の情報共有

地域協議会と地域協議会の間に、
メーリングリストや、LINE、
ディスコードで双方向に議論し
たい



イラストはChatGPTが
生成したイメージ図です